



自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

新町駐屯地創設記念行事で「伝えたかった想い」

安中総合学園高校 教諭 中村 浩修



前回の令和6年4月に引き続き新町駐屯地司令より依頼をいただき、令和7年4月5日(土)及び6日(日)、新町駐屯地創設74周年記念行事に参加させていただきました。

昨年の新町行事で拝見した模擬戦で、機甲科部隊(戦車部隊)の仮の戦闘シーンは、部員にとって大変、感動的なものでした。部員たちはその様子を是非、太鼓の演奏で表現したいと考え、今年一月、新曲「蒼翔(そうしよう)」制作にとりかかりました。曲のイメージは、自衛隊のみならずが活躍している様子を表現するものです。まず、蒼天の青空のもと大地を行進する荘厳な陸上自衛隊の普通科部隊、それに続く機甲科部隊、海上自衛隊の護衛艦隊、航空自衛隊の航空部隊が編隊飛行する様子をプロローグとし、中盤で陸上・海上・航空自衛隊の戦闘シーンの様子を表現しています。曲の終盤では、作戦任務を完遂し上空を見上げると蒼天の青空が明るい日本の未来を連想させるというイメージの曲です。私が見ても自衛隊の皆様の活躍を彷彿させるにふさわしい曲で、皆様はきっと感動していただけたと思います。この作品で部員たちは、日頃より日本の防衛や災害派遣活動等に従事された隊員、国際平和協力活動に従事されている防衛省・自衛隊の皆様、太鼓の演奏という形で感謝の気持ちを表しています。本校和太鼓部、「飛翔(ひしょう)」はこの曲で今年7月、香川県で開催される全国大会に臨みます。それに向け、現在8分の大曲に仕上げられています。「蒼翔」はさらに壮大さを増しています。

新町駐屯地創設74周年記念行事で初披露したこの「蒼翔」は本校を代表する曲というだけでなく、高校生が防衛省・自衛隊に贈った布石となる曲です。是非、全国の自衛隊の皆様には8分の大曲「蒼翔」を披露できれば幸いです。



担当広報官 と 中村 浩修 教諭

